



War Cry

10月号

福音版
2021
October
No.2824

二〇二二年 十月一日 発行

明治二十八年 創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行（除く七月）

平和の計画に希望を置いて

鈴木 眞理子

ミレーの「落穂拾い」の絵画は、貧しい農民の姿を描写しただけではなく、旧約聖書のルツ記に着想を得て描かれたと言われています。ルツという女性も落穂拾いをします。イスラエル

では貧しい人のために、収穫物を取り尽くさずに残しておくようにと定められていました。ルツ記について紹介しま



ジャン＝フランソワ・ミレー「落穂拾い」

イエス・キリストが生まれる随分前のこと、神を信じるナオミという女性がいました。ナオミがいたベツレヘムに飢饉が起り、ナオミは夫エリメレクと二人の息子を連れてモアブの地に移住しましたが、そこで夫エリメレクが亡くなりました。二人の息子はモアブの女性の嫁を迎えましたが、十年の間に息子たちも次々と死んでしまいました。故郷を離れ、夫や息子と亡くしたナオミは失意の中にいました。そんな時、故郷の地が豊作であるとの噂を聞いてナオミはベツレヘムへ帰郷します。二人の嫁はナオミを慕っていました。一人は実家に帰り、ルツのみ、姑ナオミについて行きました。

故郷に戻ったナオミは「もう私のことをナオミ（快いという意味）と呼ぶなで、マラ（苦い）と呼んでください。全能者が私を不幸に落とされたのです。ここを出る時は夫も子どももいきましたが、私はそれらのすべてを失って失意の婦人なのですから」と口にするほどでした。ルツも故郷を離れ異国での生活は大変だったことでしょう。二人とも夫に先立たれた身で、畑もなく、食べ物がありません。ルツは食べ物求め落穂拾いに出かけました。するとなんと、そこはナオミの夫エリメレクの親戚の畑で、ルツは持ち主のボアズという男性から厚意を受けました。そして、神の不思議な導きにより、やがてボアズと結婚し、ボアズとの間に子どもを授かりました。この子はオベドと言います。オベドの孫がダビデ、またその二十八代先の子孫としてイエス・キリストの誕生へとつながります。

ナオミとルツは、頼るべき家族を失い、飢饉、貧困の中にあり、苦しみの道を通りました。この時代、女性には男性と同等の権利をもたず、女性や子どもは数にも数えられないような存在でした。しかし、神は彼女たちに目を留め、祝福し、彼女たちは神のご計画の大切な部分に加えられました。私たちも、ときに次々と問題が起き、長い間、難しい状況に置かれることがあります。しかし、神は、このように語りかけています。

「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。そのとき、あなたたちがわたしを呼び、来てわたしに祈り求めるなら、わたしは聞く。わたしを求め求めるならば見いだし、心を尽くしてわたしを求めらるなら、わたしに出会うであらう、と主は言われる。」（エレミヤ書29章11〜14節）

私たちがどんな状況に置かれていても、神の愛はすべての人の上に等しく注がれ、一人ひとりにすばらしい計画が用意されています。

落穂拾いの後、ルツとナオミは神の大きな恵みに与りました。神を求め求める人に、神は確かに生きて働いてくださるのです。すべては神の御手の内にあります。神の愛の届かない場所はありません。

皆さんが真の神を見いだし、すべてが神の御手の内にあることを知り、どんな状況にあっても、平安と希望の内に歩まれますように心からお祈りいたします。

（救世軍士官（伝道者））

メディア・プロデューサー

もりしげ 森重 ツル子さん

<プロフィール>

1937年生まれ。CDプロデュースのほか、作詞・童話・シナリオ・小説の著作活動など多岐にわたる活動を展開中。

著書に『哀愁のプリマドンナー・ジュニー・リンド物語』（教文館）、編著『八木重吉詩撰集 祈りの道』、『八木重吉 わがよろこびの頌歌』、『綾子さんありがとう』（以上キリスト新聞社）。



イエス・キリストと出会い、救われる―それは、心の向きが変えられ、罪赦されて、神に従う生き方へと方向転換をすることです。その体験、道筋は十人十色で、それぞれ神が人の思いを超えて働いておられることの確かな証しです。メディア・プロデューサーとして活動する森重さんは、若き日にキリストとの鮮烈な出会いがありました。心と生き方が変えられた、恵みの経験を寄せていただきました。

小説家への夢をもって上京―厳しい現実のなかで

私は「仏の里」と言われている大分県の国東で生まれ育ちました。小学生の頃に兄から「面白いから読んでもみたら」と貸してもらった分厚い日本昔話を読みふけていたのを覚えています。文章を書くことに興味

をもち始めたのは、夏休みの宿題に提出した作文を先生から「大変上手に書いています」と褒められたのがきっかけになったような気がします。高校時代には文芸部に入り、文集の編集を手伝ったり、詩や短歌の会にも出席して投稿していました。

「高校を卒業したら東京に行って勉強し、小説家になりたい！」

そんな夢を描いていた私は高校を卒業するとすぐ、親の反対を押し切り、東京に就職した友人を頼って上京、居候して新聞広告で探した電気部品の組立て工場

友の姿を通して―涙の祈りの経験

そんな私の噂を耳にして、小学生の頃から仲の良かった成瀬敦子さんが訪ねて来ました。彼女は同志社を卒業後、上京してキリスト教

の出版社で働いていました。彼女はイエス・キリストの十字架による救いを語り、日曜日になると「礼拝に行きましょう！」と誘いに来

るようになりました。何度断つても来るので一度だけ一緒に近くの教会に行きましたが、彼女が北海道の書店に転勤になり、教会に行く機会は遠のいたのです。

それから数年後、会社の仲間と飲んでいた私は突然吐血しそのまま病院に担ぎ込まれました。出血は止まらず手術を言い渡された私は死ぬのではないかと怖くなり、その夜、ベッドの上で泣きながら祈りました。

「成瀬敦子さんが信じているイエス様！ あなたが本当の神様なら私を助けてください！ 私のいのちを助けてください！ 死にた

人生の激震―イエス様の十字架は私のためだった

そんな不遜な私の人生に再び激震が起きたのは、数年後の暑い夏の日曜日のことでした。

日曜日に納品を依頼された私が重い荷物を持って納品先近くに着いたのはお昼どきでした。それで休憩時間

を過ぎるまでどこかで休もうと思ったのですが、近くには休む店も公園もなく困っていると、教会の看板のある民家が目に留まりました。

玄関先に出てきた中年の

くない、死ぬのが怖いのです。助けてください！ もし私のいのちを助けていたのだら私はクリスチャンになります。そしてイエス様のことを伝える人になりますからどうか助けてください、お願いします！」声を上げて泣きながら祈った夜のことを今も忘れることはできません。

出血が止まり手術をせずに退院できたのは、入院から二カ月後のことでした。

職場に復帰した私は、あんなに泣いて祈ったことなどすっかり忘れたばかりか、また少しずつ酒を口にするようになっていたのです。

女性は親切に私を迎え入れてくれました。部屋の中には七、八人の信徒が牧師の説教を聞いていました。私は後ろの椅子に腰を降ろし足下に荷物を置きました。説教はすぐに終わり、牧師がお祈りを始めたその時のことでした。

突然私の目の前に、病室のベッドの上で泣きながら祈っている自分の姿が、まるで映像を見ているように鮮明に映し出されたのです。信じられない光景を見た私

「神は、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。ひとり子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

聖書 ヨハネによる福音書 3章 16節

※「ひとり子」とはイエス・キリストのこと

の目から涙が溢れ出しました。突然自分の身の上に起こった信じ難い光景と溢れ出る涙に私は戸惑い、気が変になったのではないかと思いました。

あの成瀬敦子さんが会うたびに私に言っていた言葉が蘇ってきました。

『イエス様が十字架にかけられ死んでくださったのは、私たちの罪の身代わりだったのよ。』

「神様…あなたは私のような不信仰な恩知らずな者の身代わりになって死んでくださったのですか…。」

私は胸がいっぱいになり、「神様ごめんなさい！ごめんなさい！」と泣きながら心の中で叫び続けていました。牧師は礼拝が終わると、泣いていた私のそばに来て祈ってくれました。

その夜、私は田舎の両親に初めて詫言状を書きました。東京の大学に行かせて



出版社勤務の頃

「クリスチャン新聞」主催の『あかし文学賞』の応募記事を目にした私は作家の三浦綾子さんが選者に選ばれた。出版社勤務の頃、十周年記念誌にも応募し入選しました。

本格的に書き始めたのはスウェーデンのオペラ歌手ジュニー・リンドについての著作でした。彼女の数奇な生涯を調べ、二十

その出版社では聖書通信講座の部署に配属され、良き上司、先輩方との出会いがありました。私自身も聖書を学び、毎日祈りの時を過ごし、信仰の養われる日々を過ごしていました。ある時、「クリスチャン新聞」主催の『あかし文学賞』の応募記事を目にした私は作家の三浦綾子さんが選者に選ばれた。

名を連ねていることを知り、『除かれた棘』という短編小説を書いて応募しました。すると百五十名近くの応募作品の中から佳作に選ばれたのです。それを機に翌年も『遠い雷鳴』『白い稜線』と毎年応募し、選者の三浦綾子さんに「作家だと思っただよ」と褒めていただきました。「クリスチ新聞社」の創立三十周年記念誌にも応募し入選しました。

ただ神様の憐れみにより―執筆活動への導き

くれなかつた親を恨んで家を飛び出し親不孝を重ね続けたことを詫言、神を信じる安らぎと喜びを書き添えました。

あの日を機に私の人生は変えられていきました。

あれほど飲んでいた酒も煙草もやめて、親に反発し続けたことを謝罪した私の変わりように驚いた母は、

イエス様にお礼を言うために田舎の教会に足を運び、一年後に洗礼を受け、感謝しつつ長寿を全うして召されました。

そして私はキリストにある喜びの福音を伝えたいという願いを与えられ、牧師の紹介でキリスト教の出版社に入社しました。二十五歳の時でした。

年近くかけて書き上げた伝記を、銀座教文館の渡部満社長が目留めてくださり、『哀愁のプリマドンナ』というタイトルで出版に至りました。その本が全国図書館協会選定図書に選ばれたのを機会に、原稿依頼を受けるようになりました。出版社で多忙を極めていた私は、退社して執筆を通して伝道に専念することにしたのです。

振り返るとただ神様の憐れみによって、今の私があふれることを思います。青年時代の夢であった文章を書くことを、神様のために用いていただけたのはなんと幸いなことでしょう。私にイエス様を伝えてくれた成瀬さんが誘ってくれた教会に属し、信仰生活は五十年になります。主が私を導いてくださっていることに感謝が尽きることはありません。

天国への希望をもって―感謝の日々

私は自分が救われただけでなく、母も父も、また妹もイエス様のもとへ導かれたことを感謝しています。父が信仰をもったのは私が新潟のキリスト教書店で働いていた時のことでした。九州育ちの私が雪国で苦労しているのではないかと訪ねて来ました。知人のいない新潟に転任する私に、会社の上司が当時新潟大学教授をしていた斎藤博ご夫妻を紹介してくださいました。ご夫妻は何かと面倒を見てくださり、私は安心して仕事をし、生活することができていきました。斎藤さんご一家とリース宣教師、ギャリー宣教師をはじめ新潟福音教会の下川牧師や教会の友人たちとの親しい交流を見て、父はキリスト教に関心をもち、新潟でリース宣教師から洗礼を受けて九州に帰り、国東教会の役員として召されるまで。



写真上より

・教会の仲間と共に（後列左から2人目）
・著作の一部

で感謝の生活を続けました。家具造りの職人だった父は新教会の会堂建設に励み、礼拝堂の講壇や椅子、週報入れ、下駄箱などを造って献品しました。郷里の教会に行くと父手作りの椅子に掛け、ぶどうの彫刻を施した講壇を前に礼拝できる感謝でいっぱいです。

いま私は「また会いましょう、さよならのない国で」という題の作詞を書いていくところです。やがて御国で両親や召された親しい人たちの再会が待たれます。まことの神様を信じる者にとって、死は悲しい終わりではなく、御国での再会を約束され、永遠のいのちへと至る輝かしい門出なのです。

感謝！
（浜田山キリスト教会教会員）



世界をみつめて

〈英国〉● NHS への軽食支援

英国では、新型コロナウイルス感染症に約 650 万人が感染し、約 13 万人が死亡しました。(8月25日現在) パンデミックの中で国民に医療を提供し続けている NHS (「国民保健サービス」) 一公的な国民保険に基づく医療サービス) の医療従事者に対して、救世軍は軽食の提供をおこなっています。その一つ、ウィリアム・ブース・ホール小隊 (教会にあたる) では、8月の初めに、おやつのお返しに「ほっと一息セット」150個を、地元のワクチンセンターで働く医療従事者に配布しました。



● 学校の制服提供支援

英国では義務教育は無償ですが、ほぼすべての公立学校が制服を導入しており、制服や靴は各家庭が用意しなければなりません。費用は約 2 万円弱が必要で、コロナ禍による失職などでその負担ができない世帯が出てきます。イングランド中部のシプレー小隊では地域社会に中古の制服の寄贈を呼びかけ、それらをクリーニングして、



寄贈された中古の制服をリサイクルします

新学期を迎えた子どもたちに無償で提供する活動をしています。

〈エスワティニ王国〉食糧支援

アフリカ南部に位置するエスワティニ王国 (旧スワジランド王国) では、コロナ禍に政情不安が重なった影響により生活に困窮する人々が出ています。救世軍では 500 世帯に対して食料と衛生用品を配布しました。



〈ハイチ〉地震被災地域への支援計画

8月14日にマグニチュード 7.2 の地震が発生し、死者が 2,000 人を超え、負傷者は 12,000 人以上に上って

います。現地の救世軍は直ちに被害状況を調査し、南部の 9 つの都市で 250 家族、1000 人ほどの人々に、毛布や防水シート、衛生用品 (石鹸、おむつ、消毒用品、歯ブラシ、歯磨き粉等)、飲料水と米、豆、料理用油などを届ける計画を立てています。(8月19日現在)



写真上より

- ・被災状況を調査する救世軍のチーム
- ・救世軍の小隊の建物も被害を受けた



救世軍とは? What is The Salvation Army?

心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man



救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置く、世界 132 の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865 年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、家のない人々、アルコールの悪影響下にある人々、搾取される女性や子どもたちに助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。救世軍では創立の時代から、その活動と運営において男性と女性が対等の権利と責任をもつことを原則とし、働きを進めています。

日本での働きは今年、126 周年を迎えました。日本の救世軍では 1968 年から、女性たちが中心となって「一元献金」をおこなっています。これは、一元や十円などの少額硬貨を一年かけて貯め、海外で支援を必要としている女性たちのために献げる活動です。今年 10 月にまとめられる献金はインドネシアに送られ、現地の救世軍がおこなう女性のためのマイクロクレジット・プロジェクト、能力開発のためのセミナー、ワークショップの開催のために用いられます。

※現在の新型コロナウイルス感染症の影響下においても、救世軍の小隊、社会福祉施設、病院は、感染予防策に最大限努力し、活動を続けています。

救世軍公報 ときのこえ

発行日 福音版 / 毎月 1 日、広報版 / 奇数月 15 日 (除く 7 月)
定 価 福音版 / 1 部 40 円、広報版 / 1 部 100 円
(税込) クリスマス特集号 (12 月 1 日号) / 1 部 100 円
振 替 00180 - 5 - 4400
発行兼 救 世 軍
印刷人 代表者 ステイブン・モーリス
編集人 山谷 真
発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17
電話 03-3237-0881 (代表)
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています © 共同訳聖書実行委員会 © 日本聖書協会 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営 (左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。

- ☐ 私の近くの救世軍を紹介してください。 ☐ キリスト教についてもっと知りたいです。
☐ 『ときのこえ』の購読を申し込みます。 ☐ 相談を希望します。